

FANCT vol. 134-Apr.

平成31年度入学式 (2019/4/4)

校長からのメッセージ



校長 高橋 薫

本年度より旭川高専に校長として赴任してまいりました高橋薫と申します。私は東北の宮城県生まれで、地元の工業高校を卒業後、東京のコンピュータ系外資系企業でSE、東北大学で技術職員・教員、仙台の研究系民間企業で主幹研究員、仙台高専で教員、東京の高専機構本部で研究・産学連携責任者、福岡県の有明高専で校長という遍歴を重ねてきました。今は校長という身分ですが、一貫して現場が好きで人間です。前高専でも、学生と少しでも触れる機会を持ちたいと思い、校長ながら授業を持たせて頂きました。できれば旭川高専でもそういう機会を今後持てれば良いなと思っています。

旭川というか北海道は初めて住む土地です。びっくりしたのは4月に入ってもまだ雪にあふれており、車もスタッドレスタイヤが欠かせないということでした。仙台には自宅があるのですが、そこでもそんなことはなく、びっくりしているところです。ただ、空の青さと山々の美しさには感激しています。これからは、学校の学生・教職員だけでなく、地元の方々とより多く触れ合い、良いところ(だけでなく、悪いところも)を多く見つけ、慣れ親しんでいければと思っています。

まだまだ本校のことをよく理解するまでには至っていませんが、何が大切・重要で、何を改善すべきかなどを校長目線で把握し、より良い学校になるべく教職員・学生・関係者と共に尽力してまいります。まだ分かっていないながらも、北海道の超少子化・人口減、ものづくり産業の少なさという大きくて深刻な課題には、できる限り良い方向性になるよう学校としての取り組みをしていければと考えています。一方で、『食』と『農』は北海道の強みであり、教育・研究・産学官金連携の積極的な活動を通して、この方面に学校の特色を出していければ良いと思っており、旭川地区、上川地方、北海道全体にも貢献することと確信しています。

何より、本校の学生が、学業だけでなく研究、国際交流等に高い自覚を持って学校生活を送ることで、将来、イノベティブでグローバルな技術者として社会に貢献することを願っています。



校長告辞（平成31年4月4日(木)）

新入生の皆さん、旭川工業高等専門学校へのご入学おめでとうございます。本科第1学年新入学生160名、第3学年に編入学する留学生1名、専攻科第1学年新入学生30名、合計191名の新しい学生の皆さんに、学校を代表して心よりお祝いを申し上げます。また、本日もご列席の保護者、ご家族の皆様には、心よりお慶び申し上げますとともに、お子様を本校の教育に託してくださいましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

はじめに、高専について簡単に説明させていただきます。全国には、北海道から沖縄まで、全部で51の国立高専があります。旭川高専に代表される工業系の高専を中心に、商船学科やビジネス学科を備えた高専もいくつかあります。各高専とも、本科と呼ばれる15歳から始まる5年間の教育課程があり、その上に、2年間の課程から成る専攻科が設置されています。高専は伝統と歴史を持つ高等教育機関であり、ほとんどの高専は創立から50年以上を経ており、旭川高専は高専第1期校として創立から58年目を迎えました。

高専本科では、まず低学年での理系・文系の基礎的授業科目からスタートし、高学年では専門分野の高度な授業科目へと進んでいきます。通常の高校から大学に至る教育環境では得られえない、高度で実践的な技術者を育成する5年間の一貫教育の実現です。このユニークな教育システムは国内のみならず海外でも高い評価を得ています。実際にモンゴルでは、すでに日本の高専をモデルとしたモンゴル高専が設立されており、タイでも今年の5月にタイ高専がスタートします。また、ベトナムでは高専との連携を図り、将来のベトナム高専に向けて、高専型の技術者教育を始めようとしています。

（次ページへ続く）

(前ページより続く)

さて、日本では政府が主導して「Society5.0」という取り組みを始めています。インターネットを中心としたサイバー空間を積極的に活用し、新しい価値やサービスを創出することで、人々に豊かさをもたらす人類史上5番目の社会としての「超スマート社会」を、世界に先駆けて実現しようとするものです。原始的な狩猟社会、土地に落ち着いた農耕社会、機械を活用した工業社会、情報を中心とした情報社会に続く5番目の社会という位置づけです。このような新しい社会に科学的、技術的な側面から対処し、社会に貢献できる高度な技術を持った人材を育成することが、高専の教育であり使命です。まさに旭川高専は、優れた教育環境により、このような新しい社会に貢献できる人材を育む、日本有数の高専です。

旭川高専は、機械システム工学科、電気情報工学科、システム制御情報工学科、物質化学工学科の4つの学科から成る高専です。皆さんには本校の優れた教育システムの下で、それぞれの学科での専門の知識を深めると共に、先に述べた Society5.0 のような社会の実現に向け、複数の分野に渡る多様で幅広い知識を同時に身につけてくださることを願います。それらのために、何よりも自己、つまり自分自身をこの学校で磨く努力をしてください。ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション、英語プレゼンテーションコンテストなどの取り組みもありますので、これらを学業と共にうまく活用してください。

また、本校は、ヨーロッパの4つの大学、アジアの3つの大学と1つの高等学校、オセアニアの1つの大学と学術交流協定を結んでいます。これらの海外教育機関と交流することで、皆さんのグローバル性、国際性、英語力を養うことができます。学校は可能な限りこれらとの交流に援助を行いますので、与えられた機会をぜひ利用するようにしてください。

さて、本科入学生にとって高専での学校生活は、今までの中学校生活とは違ったものになります。勉強も難しくなりますし、何よりも先生に一方的に教えられるだけでなく、自ら進んで学んでいく姿勢が求められます。安易な気持ちで学校生活を送ることは禁物であることを心に留めておいてください。進級ができなくなってしまうということもありますので、何よりも普段の勉学の姿勢を大事にしてください。

しかし、そのような中でも、授業で分からないこと、あるいは自身が何をしたいか分からないことがあれば、先生方が相談に乗ってくれます。自分自身あるいは友達だけでなく、積極的に先生方に聞きに行ってください。きっと、皆さんのお役に立てるはずです。その他、部活、クラス、寮などの学校生活のことで悩みがあれば、何でも皆さんの相談に応じますので、遠慮なく教職員に相談してください。皆さんが困難を克服して成長することが、私たち教職員にとっては何よりの喜びであります。私たち教職員は皆さんの学びを全力で支えていきます。

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

さて、第3学年に編入学する留学生の方、ようこそ旭川高専へ！新しい地での出発です。母国と日本では文化も習慣も大きく違っているでしょう。しかしそれでも、人間そのものは一緒のはずです。本校の日本人学生および教職員とたくさんコミュニケーションをとり、早くお互いに理解しあえる仲になればと思います。勉強や生活のことなどで困ったことがあれば、遠慮なく周りの学生や教職員に相談してください。本校では高度な技術者を育てる教育環境を提供します。日本だけでなく、母国にとっても役立つ知識と技術を学べるはずです。旭川高専で学んだことを活かして、将来、母国に貢献できる立派な人材となるよう期待しています。もちろん、ここでの生活を十分にエンジョイしてください。

専攻科入学生の皆さん、新たな高専生活の始まりです。高専本科で得た知識、技術や経験をいかんなく発揮してください。専攻科は、準学士ではなく学士を目指す研究・教育課程ですが、皆さんには大学レベルではなく、むしろ大学院の修士レベルの科学技術力を獲得できるよう高い望みを持って勉学に励んでもらいたいと思います。

研究室の先生の指導の下、自身の研究テーマについてコツコツと、しかしながら強い意欲を持って邁進してください。そして、その成果を学内だけでなく学外でも発表してください。大きい・小さい、地方・全国、国内・海外いずれにせよ、世間で発表することが重要です。たとえ研究成果が小さなものであっても、他の大学生、大学院生と同じ土俵に立つことで、自身にとって大きな成長の糧となります。大きな成果を得た場合にはなおさらです。

専攻科修了後は、就職する学生、大学院に進む学生の2つに分かれます。通常の大学卒の学生に比べ、知識も技術も優位に立っているはずですし、またそうなるよう勉強、研究に努めてください。2年間という短い期間です。入学時点で自分の将来を見つめ、計画的に過ごしてください。

新入生全員に申し上げます。この旭川高専で得ることは非常に大きいと思います。社会構造・産業構造が変わろうとしているこの日本全体を、イノベティブでグローバルな技術者として支え、また、超高齢化・少子化・人口減少という地域の課題を打破し、地域を元気にする起爆剤となるような学生になってくれるよう期待しています。

最後と致しまして、新入生の皆さんがこの旭川高専での学生生活を、明るく楽しく、有意義に過ごしていかれること、そして、今日ここにいる皆さん全員が無事卒業、修了することを心より願ひまして、告辞といたします。

留学生到着 (平成31年4月2日(火)、4日(木) : 本校HP記事を再掲)

4月2日にマレーシアからLEE Hao Jie 君が、また、4日にはArthur ALAIN君とGuillaume WASILEWSKI 君がフランスから本校にやって来ました。彼らは、5日に実施された始業式にて2年生以上の在校生に日本語で自己紹介を行い、温かい拍手で本校に迎え入れられました。

この後、JIE 君は電気情報工学科で3年間、専門知識を学びます。ALAIN君とWASILEWSKI君は、それぞれ、宜保准教授(電気情報工学科)と石向准教授(機械システム工学科)の指導で、3か月間の研究生生活と日本文化の探索を行います。彼らが実り多き旭川高専生活を送れることを願っております。

ちなみに、ALAIN君が着ているトトロのスウェットシャツは、フランスで買い求めたそうです!!

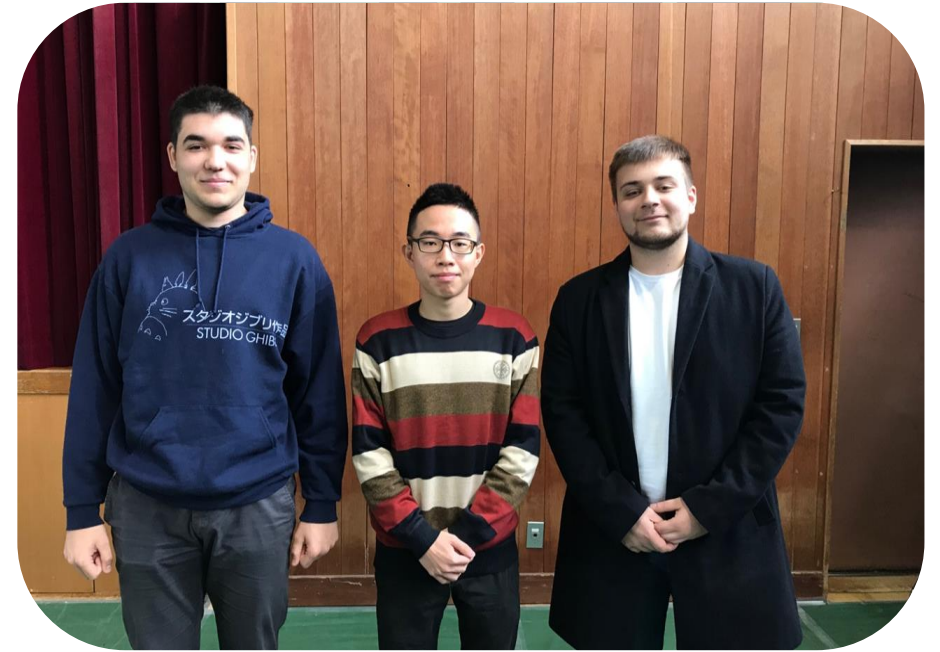
<3人からのメッセージ>

Arthur ALAIN君 I wanted to go to japan for my Internship, because I love japanese culture, especially the studio Ghibli. I wish to discover the surroundings of Asahikawa and Hokkaido and improve my command in Japanese as well as learn about the working environment in the IT field.

LEE Hao Jie君 I am glad to have an opportunity to study at National Institute of Technology, Asahikawa College. The teachers and students here are very kind and helpful. At last, I hope that I can learn more about technology and make more Japanese friends!

Guillaume WASILEWSKI君 I wanted to go to japan for my internship because it allows me to improve my knowledge in english and japanese. Besides the japanese culture is something unknown to me and I was curious to discover it.

I hope to leave japan with the skills and knowledge to be able enter the working environment in Maintenance.



Arthur ALAIN (Le Havre, FRANCE) Guillaume WASILEWSKI (Valenciennes, FRANCE)
LEE Hao Jie (Penang, MALAYSIA)

副校長からのメッセージ1 (平成31年4月8日(月))



「社会を支える技術者」 教務主事 副校長(教務担当) 三井 聡

今年度も教務主事を務めることになりましたシステム制御情報工学科の三井です。4月4日に入学式を挙行し、160名の新入生と1名の留学生、30名の専攻科生を迎えました。本年度は本科生798名、専攻科生54名の合計852名の学生が在籍し、校長以下56名の教員が教育・研究指導を行いますので、よろしくお願いします。

近年、世界はAI、ビッグデータ、ロボットなどによって人とモノがあらゆる情報によって結びつき、社会の問題解決、利便性向上、イノベーションを生み出す真の情報化社会に向かっています。本校は社会を支える、変える、そして生み出すことができる技術者を育成する教育機関です。学生には本校の教育環境の中で一所懸命に勉強して、専門的な知識、技術、人間力を身に付け、社会に貢献できる技術者になってもらいたいと思っています。

最後に、お子様の将来のためにも、我々教員と保護者が一つになって、教育しなくてはならないと思っています。御協力をお願いします。



「学生指導について」 学生主事 副校長(学生担当) 鈴木智己

今年度も学生主事を務めることになりました。どうぞよろしくお願い致します。高専に赴任して19年目になりますが、この間、時代の移り変わりとともに学生の気質も少しずつ変わってきているのを感じています。ただし、私たちが学生指導で掲げる目標は明瞭であり、一人ひとりの学生が安心して生活を送ることのできる学校の実現と人間的成長を促すことです。

一つ、学校での大きな変化についてお知らせ致します。学生の人間的成長に大きな役割を果たしているのがクラブ活動ですが、現在国を挙げて部活動の在り方について見直しが行われています。具体的には平日と土曜・日曜のどちらも少なくとも1日以上以上の休養日を設けることを基本とするというものです。背景には学校における教職員の働き方改革の考えがありますが、本校でもクラブ活動の意義を再認識しつつ「短時間で、合理的で且つ効率的・効果的」な活動を目指していきたいと考えておりますので、ご理解をお願い致します。

副校長からのメッセージ2 (平成31年4月8日(月))



「基本を大切に」 寮務主事 副校長(寮務担当) 梅田 哲

昨年度に引き続き、寮務主事を務めることとなりました物質化学工学科の梅田です。今年度も49名の新1年生が入寮しました。彼らを含め全ての寮生が「基本的な生活習慣を身に付けること」、「集団生活のルールを守ること」ができるよう、また、安全・安心な寮生活を送れるよう指導に取り組んでまいります。

昨年度は、暴力やいじめなどの大きな問題のない穏やかな明誠寮でありました。しかし、残念ながら現金盗難、外泊届の虚偽申請や点呼の虚偽報告など見逃せない不正行為が発覚した1年でもありました。寮生の保護者の皆様には既にお知らせしてありますように、今年度から外泊届の電子申請を開始します。寮生はスマートフォン等でいつでもどこでも申請が可能となり、申請情報を寮生・保護者・学校が共有できるようになります。これにより帰省時のトラブルを防止し、不正申請を減らすことができると期待しています。

保護者の皆様には、寮での指導・教育について、どうぞご理解とご協力を宜しくお願い致します。

「専攻科設置から20年」 専攻科長 副校長(専攻科担当) 大島功三

昨年度に引き続き、専攻科長を務めます電気情報工学科の大島です。どうぞよろしくお願い致します。今年度は30名の1年生を迎え、ここ数年では最大の合計54名の専攻科生が在籍し、勉学、研究に励んでおります。

最近のテクノロジーの発展は目覚ましいものがあり、その勢いはとどまるところを知りません。技術の発展と我々が暮らす社会がより密接に関わるようになるのが、日本政府が提唱する「Society5.0」です。

Society5.0社会においては、課題解決の能力だけでなく、課題発見の能力をもつ人材が求められます。専攻科生には(海外)インターンシップ、特別研究(学外発表)、エンジニアリングデザイン教育(PBL教育)などの総合的な学習を通じて、創造的な思考力、汎用的能力を身に付けて欲しいと思います。

今後も、専攻科として地域と連携した共同教育の拡充や地域創生への貢献を考えておりますので、お力添え頂ければ幸いです。



本科1年担任団からのメッセージ (平成31年4月8日(月))

機械システム工学科 学級担任 本荘忠大

機械システム工学科1年生のクラスは、男子37名、女子2名からなるクラスです。新入生合宿研修ではお互いに協力し合い、すばらしい団結力を見せてくれる場面もありました。スタートは申し分ないと思います。これからの5年間では、「休まない」、「遅れない」、「諦めない」をモットーに、充実した学校生活を送りましょう。決して安易な道に逸れないように、こつこつと粘り強く努力を継続してください。応援しています。

システム制御情報工学科 学級担任 松井秀徳

“If I have seen further it is by standing on the shoulders of giants. (もし遠くを見渡せたとすれば、それは巨人の肩の上に乗っているからである)”

これは物理学者アイザック・ニュートンが書いた手紙の一部です。先人たちの積み重ねた研究のおかげで新たな発見をすることができる、という意味です。先人たちが積み重ねてきた学問を共に楽しみましょう。

電気情報工学科 学級担任 奥村和浩

ご入学おめでとうございます。心より皆さんを歓迎いたします。人生は一度きりですので、自分が進みたい方向を見出したり、極めたりして、精進していつてもらいたいと思います。また、私も学生の皆さんに負けずに、手本となるよう精進し、自分が生きた証を残せるよう歩んでいきたいと思っています。よろしく願い致します。

物質化学工学科 学級担任 水野優子

物質化学工学科1年は、女子14名、男子27名からなるクラスで、寮生は10名です。1Cの皆さんには入学式の日にも伝えましたが、「一人ひとりが安心して笑顔で過ごせるクラス」、「誰かのために行動できる温かいクラス」を作っていってほしいと思います。そのために大事なことは、「人の言うことに対して否定的な態度を取らないこと」と「違いを認め合うこと」です。5年後に、大きく成長した姿を見せてくれることを楽しみにしています。

本科3年担任団からのメッセージ

(平成31年4月8日(月))

機械システム工学科 学級担任 松岡俊佑

3年生からは専門科目の授業が本格化し、難しくなります。また、将来の進路についても考え始める時期です。学校生活にもだいぶ慣れてきたことと思いますが、新たな気持ちで新年度の学校生活をスタートしましょう。学級担任として、皆さんが充実した学校生活を送れるようにサポートしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

システム制御情報工学科 学級担任 堀川紀孝

高専5年間の中間である3年生は慣れと先の長さで油断しがちですが、専門科目が本格的に始まり、高専としての専門性を実感することと思います。これからの3年間、進みたい道が決まっている人はそれを目指し、決まっていない人は次の進路を意識しながら様々な分野の学習に取り組みましょう。自主的で自立した行動(やるべき時はやる)を心がけ、メリハリのある学校生活を送って下さい。

電気情報工学科 学級担任 井口 傑

3Eは男子35名、女子2名、男子留学生(マレーシア)1名計38名です。クラスを受け持つにあたり、以下のことを大事にしていきたいと考えておりますので、保護者の皆様のご協力よろしくお願い致します。

- ・【共生】学生の多種多様な個性を、お互いに認め合うことができる。
- ・【自立】自ら心と身体の調子を整え、物事を自分で決めることができる。

学生生活に関する不安なことなどがありましたら、ご相談下さい。

物質化学工学科 学級担任 宮越昭彦

前回の学級担任時から、他高専への人事交流や学生相談室運営、学科運営を経て、10年ぶりに学級担任に返り咲きました。クラス学生には「失敗を恐れずにどんどんチャレンジする姿勢を応援する」ことを伝えております。高専生活の中で1つでも多く成功体験を得て、卒業の日を迎えられるよう指導していきたいと思っております。

保護者の皆様には様々な場面でご協力を賜ることになろうかと存じます。これからもよろしくお願いいたします。

新任教員からの着任挨拶 (平成31年4月8日(月))



准教授 阿部敬一郎

2018年10月から無所属であります。経営情報の実務家教員で、ペンネームは厂崎(かんざき)敬一郎です。化粧品の製品企画、経営コンサルタント、Business Analyst、プロジェクトマネージャのメンターに短大の専任講師、ときどき舞台役者が略歴です。趣味は筋トレ、年に4回程度の海外旅行です。

一般人文科 助教 阿羅功也

この4月に旭川高専の教員として着任しました阿羅です。担当は保健・体育です。7年ぶりに地元である旭川に戻ってくることができ、感謝しています。教育や研究にて、旭川へ恩返しできるよう精進したいと思っています。学生たちとは健康や運動の奥深さを共有していきたいです。よろしくお願いいたします。

一般理数科 准教授 松原英一

この4月に大阪歯科大学から赴任して参りました。10年ぶりの故郷北海道での勤務となります。専門は光科学で、授業は現在1年生の情報基礎と3年生の応用物理を担当しています。旭川高専では、教育も研究も全力で取り組みたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

「学生総合支援センター」からのお知らせ (平成31年4月8日(月))



学生総合支援センター長
後藤 孝行

学生総合支援センターは「学生相談室」、「キャリア形成支援室」、「特別支援室」で構成されており、センター長は後藤孝行(機械システム工学科)が務めます。

学生相談室の室長は私が兼任し、学生の個人的問題(修学上の悩み、心身の健康、いじめ、ハラスメント等)の相談を受けてその早期解決の手助けに取り組めます。

キャリア形成支援室の室長は吉本健一先生(電気情報工学科)であり、学生の進路(就職・進学)に関する指導やキャリア形成支援に取り組めます。

特別支援室の室長は教務主事の三井聡先生(システム制御情報工学科)であり、発達障害者支援法に基づき、修学上特別な配慮を必要とする学生のための学習環境の整備や支援に取り組めます。

学生及び保護者の皆様におかれましては、ご心配事等ございましたら、各室へご相談して頂ければ幸いです。

曜日	時間※1	相談員	連絡先※4
月	15:00 ~ 17:00	教職員相談員 後藤 孝行(機械システム工学科)	TEL: 8006 E-mail: gotoh@asahikawa-nct.ac.jp
火	12:30 ~ 16:30	カウンセラー(臨床心理士) 石黒 三知子	TEL: 8146 E-mail: ishiguro@asahikawa-nct.ac.jp
水※2	15:00 ~ 17:00	教職員相談員 阿部 晶(システム制御情報工学科)	TEL: 8035 E-mail: abe@asahikawa-nct.ac.jp
		教職員相談員 小寺 史浩(物質化学工学科)	TEL: 8046 E-mail: kodera@asahikawa-nct.ac.jp
木	13:30 ~ 17:30	カウンセラー(臨床心理士) 藤井 厚子	TEL: 8146 0166-22-8189 (六条医院)※5 E-mail: fujii@asahikawa-nct.ac.jp
金※2	15:00 ~ 17:00	教職員相談員 畑口 雅人(電気情報工学科)	TEL: 8020 E-mail: hataguti@asahikawa-nct.ac.jp
		教職員相談員 江口 篤史(技術創造部)	TEL: 8169 E-mail: eguchi@asahikawa-nct.ac.jp
月~金	9:00 ~ 17:00	及川 久美子(看護師)※3	TEL: 8145 E-mail: oikawa@asahikawa-nct.ac.jp
		酒井 明奈(非常勤看護師)※3	TEL: 8145 E-mail: sakai_m@asahikawa-nct.ac.jp

※1 開室時間等については、休日・長期休暇を除く。

※2 水曜日・金曜日は隔週交代になります。

※3 看護師は隣の医務室にあります。

※4 電話番号(※5を除く)の前に【0166 55】をつけてください。

メールアドレスは@(アットマーク)を全角から半角@に変更してください。

新入生合宿研修 1 (平成31年4月11日(木)・12日(金))

学生主事補 小西卓哉

4月11日(木)・12日(金)の2日間、「ネイパル深川」において新入生合宿研修が行われました。この研修には3つの目的がありましたが、新入生の皆さんは体感することができたでしょうか？

1つ目は、卒業生や同行してくれた各学科の先輩方の話を聞くことで、「各種行事やクラブ活動、寮生活など、高専生活の概要を理解する」ですね。校歌はきちんと覚えましたか？全体・学科別オリエンテーションの様子からは、しっかりと聞いて理解してくれていると感じていました。2つ目は、入学してすぐの日程で不安もたくさんあったかもしれませんが、エンカウンターやスポーツ活動を通じて「学生相互の理解及び友情を深めるとともに、学生と教員の信頼関係を築く」ことでした。スポーツ活動の様子から深い交流ができたのではないかと思います。最後に、学外の施設を使用することによって、施設の方々との関わりや、クラスメイト・クラス以外の同級生との集団行動を通じて「学生として、市民として必要なマナーを理解し、他人への思いやりの心を育む」ことができたでしょうか。全体を通じて、皆さんマナーを守ってくれていたと感じています。これから、皆さんの高専生活5年間は本格的にスタートします。今回の研修を基に、有意義な高専生活を送って下さい。



新入生合宿研修 2 (平成31年4月11日(木)・12日(金))

質問内容 ①合宿研修を終えて ②印象に残ったこと ③今後の高専生活について ④クラスの雰囲気について

機械システム工学科 1年 代表者 小笠原岳史 さん

- ①合宿研修を終えて、自分は人と協力する大切さと楽しさを再確認できました。特に1日目の自由時間では当初、自分一人で計画したドッジボールに1Mの多くのクラスメイトに来てもらい、さらに1Eの皆さんにも協力してもらい多くの人が楽しめました。その際にも、ルールを改良してボールに触れる人を増やしたり、チーム戦にしてみたりと話し合いを重ねていって、充実した自由時間となりました。
- ②印象に残ったことは5色綱引きです。2日目に行われたスポーツ研修で最後に行われた競技です。私たち、1Mはそれまでのバレーボールや玉入れといった準備運動での勝利は1Eに譲っていましたが、この5色綱引きについてはクラス全員一丸となって勝利を目指し、最後の最後に勝ちをもぎ取ることができました。
- ③以前の学科オリエンテーションで同じような質問が1Mの学生にされました。そして、その際に多く聞こえた言葉は「留年をしない」というものでした。確かに、高専は留年する学生も多く、それはこの学校に入学した者全員が恐れていることです。しかし、「留年をしない」とは高専の学習における最低限ラインであると思うのです。なので、例えば「良い成績をキープしたい」とか、「部活動と学業を両立させたい」というような、高い目標を持てるクラスになりたいと思います。そのため私は(結果がついてくることはともかくとして)「成績上位のキープ」を目標に学業に専念したいです。
- ④以前よりもずっと和やかになった気がします。寝食を共にすることで、お互いの性格が理解できたり、今まで関われなかったクラスメイトと仲良くなれた人が多くいたからだだと思います。5年間を共にする仲間同士、これからも支え合っていきたいです。



1M級長の小嶋浩輝さん(左)と
学生会長の4C平澤晃大さん(右)

新入生合宿研修3 (平成31年4月11日(木)・12日(金))

質問内容 ①合宿研修を終えて ②印象に残ったこと ③今後の高専生活について ④クラスの雰囲気について

電気情報工学科 1年 代表者 高橋優心 さん

- ①特にこれといったトラブルもなく、皆がルールを守って研修に参加できたのが良かったです。
- ②ミニバレーと玉入れで優勝して、クラスの団結力が深まったことです。
- ③先輩方からありがたいお話を聞けたので、そのことを忘れずに行動していきたいです。
- ④研修前は誰とも話せないような雰囲気でしたが、アイスブレイクやスポーツなどで仲の良いクラスという雰囲気になりました。



1E級長の辻和起さん(左)



新入生合宿研修 4 (平成31年4月11日(木)・12日(金))

質問内容 ①合宿研修を終えて ②印象に残ったこと ③今後の高専生活について ④クラスの雰囲気について

システム制御情報工学科 1年 代表者 奥山大夢さん

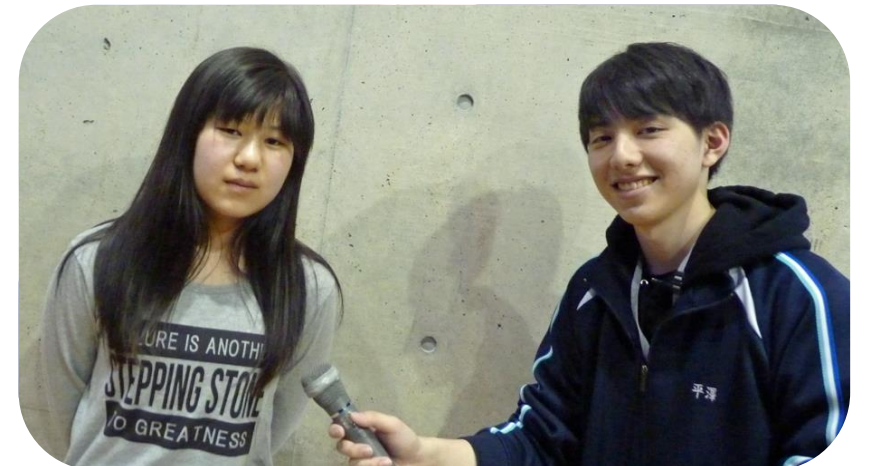
- ①学生会や卒業生の話で色々なことを学ぶことができたので、今後の参考にしようと思います。また、他のクラスの人達とも仲良くなることができたので良かったです。
- ②合宿研修で印象に残ったことは、10人部屋に行ったときに、今まで名前がわからなかった多くの人と仲良くなれたことです。枕を投げたりして距離が縮まりました。
- ③まだまだわからないことだらけで不安もありますが、困っているときに頼りにできる先生や先輩がいるので、多忙になる前に全力で高専生活を楽しみたいです。
- ④クラスの雰囲気は、合宿研修を通してすごく明るくなったと思います。それまでは、昼休みの教室はすごく静かで寂しかったのですが、合宿研修を通して気軽に話せるようになり、全体的に明るくなりました。



1S級長の和泉梨響さん(左)

物質化学工学科 1年 代表者 福澤果純さん

- ①合宿研修を通して協調性を身に付けることができました。またオリエンテーションなどを通して高専の特徴や、これからの学校生活について詳しく知ることができてよかったです。
- ②先輩に質問しやすく、とても安心しました。学生会の人達の発表が堂々としていたことや、卒業生の話の内容もとても印象に残りました。
- ③できるだけ早く慣れて高専を楽しみたいです。テスト等に備えて普段から学習に励みたいです。授業でわからなかったところはすぐ聞くようにしたいです。
- ④皆がお互いに尊重し合える、明るくて楽しいクラスにしたいです。



1C級長の福澤果純さん(左)

新入生合宿研修5 (平成31年4月11日(木)・12日(金))

学生会会長 物質化学工学科 4年 平澤晃大 さん

4月11日(木)・12日(金)に行われた合宿研修に同行させて頂きました。明るく活発なクラスが多く、積極的に活動に参加している人が多く見られました。夕食後に体育館で遊ぶ学生も多く、体育大会や学校祭に積極的に参加してくれるよう願っています。特に印象に残ったのは、1年生全体を通して挨拶をしっかりとしてくれるところです。廊下をすれ違うたびに皆が挨拶をしてくれて、学生会としてもとても気持ちよく仕事を行うことができました。高専の5年間はとても早く過ぎ去るようになります。ですので、今の1年生にはこの思い出の1つ1つを忘れないで頂きたいです。



機械システム工学科



システム制御情報工学科



電気情報工学科



物質化学工学科

FANCT

vol. 134-Apr.



独立行政法人国立高等専門学校機構

旭川工業高等専門学校

〒071-8142 旭川市春光台2条2丁目1番6号

TEL 0166-55-8000（代表）

FAX 0166-55-8082

URL <http://www.asahikawa-nct.ac.jp>

学校だよりに掲載されている記事・写真などは、学校だよりへの掲載目的以外の利用及び外部への提供は一切行いません。また、個人情報に関するお問い合わせは、上記担当までご連絡ください。掲載の記事・写真・イラストなどのコピー・転写等の二次利用は固くお断りいたします。